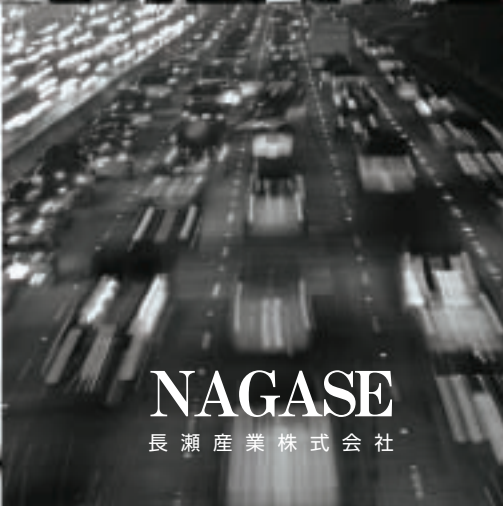


Nagase
Report

■証券コード8012

第89期事業報告書
平成15年4月1日～平成16年3月31日

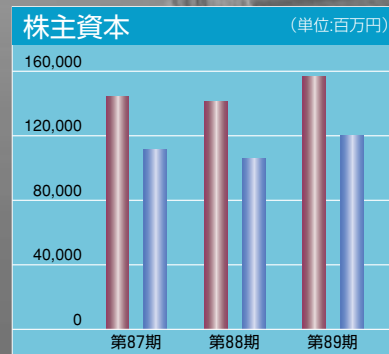
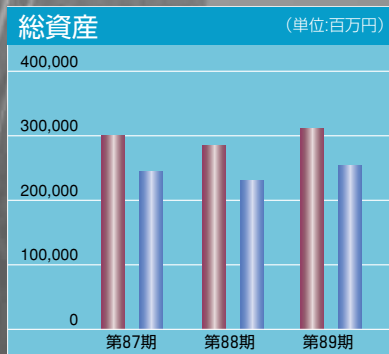
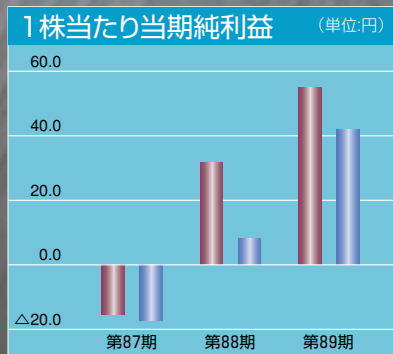
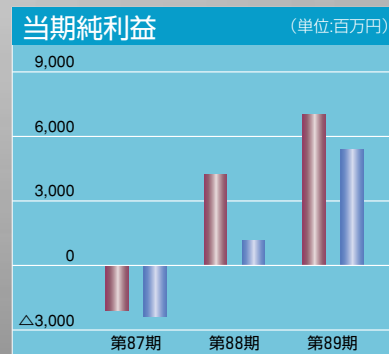
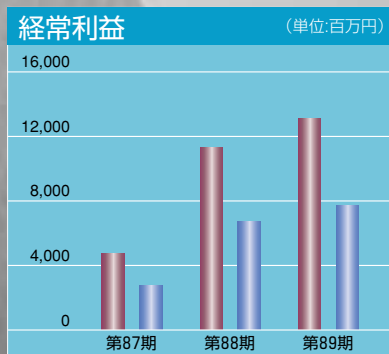
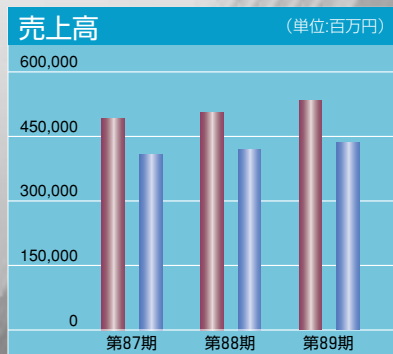


NAGASE
長瀬産業株式会社

業績ハイライト

Financial Highlights

■ 連結 ■ 単体



業績ハイライト

	(単位)	第87期(平成14年3月期)		第88期(平成15年3月期)		第89期(平成16年3月期)	
		連結	単体	連結	単体	連結	単体
売上高	(百万円)	490,583	407,950	503,688	418,004	533,301	433,817
経常利益	(百万円)	4,739	2,761	11,284	6,671	13,110	7,663
当期純利益 (純損失△)	(百万円)	△2,097	△2,361	4,186	1,126	7,010	5,373
1株当たり当期純利益 (純損失△)	(円)	△15.39	△17.33	31.72	8.27	54.69	41.84
総資産	(百万円)	300,073	244,916	284,800	230,052	310,793	253,810
株主資本	(百万円)	144,176	111,350	140,944	105,332	156,210	119,850



左：長瀬洋社長 右：長瀬英男会長

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素より格別のご高配を承り厚く御礼申し上げます。

第89期事業報告書をお届けするにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

当期におけるわが国経済は、輸出の好転を起点とする企業業績の改善と株価上昇による心理的な押し上げ効果もあり、雇用不安などによる個人消費には力強さが欠ける

ものの、景気は徐々に回復してまいりました。こうしたなか、当社は各事業の一層の業績拡大に努めてまいりました。その結果、連結での国内販売は3,945億5千万円と前期比3.6%増、海外販売が1,837億4千万円と前期比10.6%増となり、連結総売上高は5,333億円と前期比5.9%増となりました。

利益面につきましては、売上総利益の増加および販管費の削減効果により、営業利益は102億4千万円と前期比21.5%増となり、経常利益は131億1千万円と前期比16.2%増となりました。当期純利益は、退職給付会計処理の変更や厚生年金基金の代行部分を返上したことによる特別損益の計上等がありました。投資有価証券評価損が前期に比べ大きく減少したこと等により、70億1千万円と前期比67.4%となりました。

当社は、2003年4月より長期ビジョンとして『ケミカルを基盤として、新たな「機能」と「サービス」をグローバルに提供し、顧客の課題を解決する高付加価値ビジネスを創造しつづける会社を目指す。また、その成長目標として10年後に連結営業利益200億円、連結売上総利益率15%、資本コストを上回る収益を目指す。』を策定いたしております。

また同時に3か年にわたる新たな中期経営計画「WIT21」[W:Wisdom(知恵) / I: Intelligence(情報) / T: Technology(技術)]をスタートさせており、1)顧客指向の徹底による差別化の推進、2)マーケットリーダー事業の育成強化、3)グループ機能と独自性を生かしたビジネスの創造、を基本戦略として掲げております。この「WIT21」では経営指標として、実績の絶対額と増減が明確に表される営業利益を最優先としており、最終年度である2006年3月期に連結売上高5,500億円、連結営業利益110億円を達成することを目標としておりますが、2年目の2005年3月期に前倒しでの達成を見込んでおります。今後も中長期的な視点で、重点戦略分野に対し経営資源を集中的に投入しながら事業収益の拡大を図ってまいります。

株主の皆様のさらなるご支援、ご鞭撻を賜りますよう心からお願い申し上げます。

平成16年6月

代表取締役会長 長瀬英男

代表取締役社長 長瀬 洋

株主の皆様へ

Contents

・業績ハイライト.....	1	・トピックス.....	6
・株主の皆様へ.....	2	・連結財務諸表.....	7
・社長インタビュー.....	3	・単体財務諸表(要旨).....	9
・特集：中期経営計画「WIT21」の進捗状況...5		・会社概要.....	10



Hiroshi Nagase

ケミカルを基盤とする新たな「機能」と「サービス」をグローバルに提供、お客様の課題を解決する高付加価値ビジネスを創造しつづけてまいります。

Q 当期における事業別状況をご説明ください。

液晶関連ビジネスが極めて好調に推移し、電子事業が大幅に拡大しました。

化成品事業につきましては、自動車関連のウレタン事業、スペシャリティケミカルでの油剤関連特殊化学品および塗料関連の売上が伸長し、全体として前期を上回る結果となり、売上高は、前期比3.4%増の2,313億6千万円となりました。

次に、合成樹脂事業ですが、中国と香港、台湾を含むいわゆるグレーターチャイナ圏での販売が現地調達品を中心に拡大し、日本からの輸出は減少したものの、全体としては前期を上回る結果となり、売上高は、前期比3.1%増の1,709億9千万円となりました。

電子事業につきましては、重点分野であるエレクトロニクス関連事業の中核をなすセグメントとして注力しております。液晶関連ビジネスが極めて好調に推移し、大幅に拡大した結果、売上高は、前期比19.3%増の1,189億

7千万円となり、全社の業績好調を牽引する結果となりました。

ヘルスケア・他事業につきましては、化粧品・健康食品関連、医療情報・臨床検査関連は、ほぼ前期並みに推移しましたが、放射線測定関連が減少しました。その結果、売上高は、前期比17.3%減の119億6千万円となりました。

Q 次期の見通しについてお聞かせください。

次期は、総売上高5,680億円、営業利益120億円、経常利益142億円を見込んでおります。

まず、化成品事業についてお話しいたしますと、ライフサイエンス関連の医薬品および食品添加物関連は、当社グループが対象とする市場がこれから拡大すると見込んでおります。また、日系自動車メーカーの海外生産もさらに拡大が見込まれるため、ウレタン事業のみならず、樹脂添加剤や塗料関連でも海外を中心に需要が伸長すると思われます。そのほかにも、ナガセテムテックス(株)製品の拡

大に注力するとともに、インクジェット用途やプラズマディスプレイ、DVD関連などの成長分野に重点を置き、収益拡大を図ってまいります。これにより、売上高は前期比5.0%増の2,430億円を見込んでおります。

次に合成樹脂事業ですが、自動車関連ビジネスにおいては、中国を中心に世界需要の拡大が見込まれます。日本でのビジネス基盤の上に、徹底した顧客指向の活動を行い事業規模の拡大に注力します。また住設・建材関連では、今後国内で大きな需要の増加は見込まれませんが、川上から川下までの一貫したビジネス基盤を拡大させることにより、当社が主導権を維持できる高収益体質を構築してまいります。さらにグレーターチャイナ圏での合成樹脂需要は、今後も拡大すると考えられますが、同時に日本からの輸出品だけでは対応できない市場になってきております。これらの市場構造の変化に対応できる体制の拡充に努め、収益の拡大を図ります。当事業での売上高は、前期比3.5%増の1,770億円を見込んでおります。

当期、大幅に伸長した電子事業に関してですが、液晶関連業界は、今後も成長が継続すると考えられます。現在までに構築してきたビジネス基盤をより強固なものにするとともに、自社およびグループ内での製造品目の拡充に努め、液晶関連業界での川上から川下に至るビジネスの幅の拡大に努めます。また、半導体関連および機能性材料関連も、ナガセケムテックス(株)製品の国内外での製造機能を活かし、自社製品を中心とした強固な体制を構築することにより、事業の拡大を図ってまいります。コンシューマー商品の販売も一層の体制の拡充を図り、収益拡大に努めます。当事業での売上高は、前期比13.5%増の1,350億円を見込んでおります。

ヘルスケア・他事業につきまして、化粧品・健康食品関連は、長年にわたり培ってきた全国での販売網をさらに強固なものとして、魅力的な新商品の投入を継続し、同時に店舗販売による販売チャネルの多様化を継続して

まいります。医療情報関連では、事業の選択と集中を徹底し、販売拡大に注力します。当事業での売上高は、前期比8.6%増の130億円を見込んでおります。

以上によりまして、次期売上高は5,680億円、営業利益120億円、経常利益142億円、当期純利益95億円、年間配当につきましては1株当たり8円を予定しております。

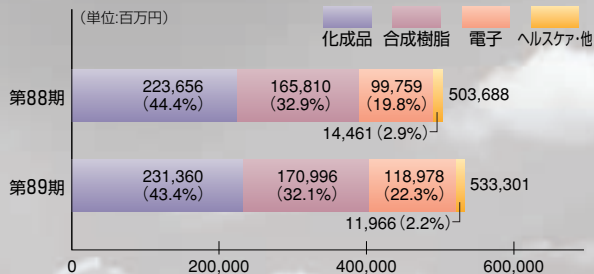
Q 重点戦略分野での進捗状況をご説明ください。

海外拠点の強化・拡大を推し進め、競争力を発揮するビジネス基盤を築きます。

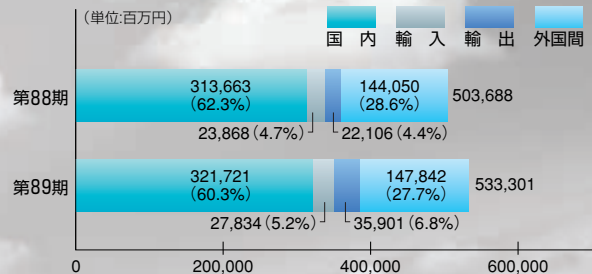
エレクトロニクス分野では、2003年12月より中国における変性エポキシ樹脂製造会社である長瀬精細化工(無錫)有限公司が商業運転を開始しております。また、液晶表示装置の加工・組立事業をさらに強化するため、2004年3月には香港に長瀬国際電子有限公司を設立しました。ライフサイエンス分

野では、新薬開発支援、既存・後発医薬品支援、創薬支援を推進するため当社のR&Dセンターにおける研究活動と併せ、ナガセケムテックス(株)に小規模医薬中間体製造設備を稼働させております。自動車関連分野については、当期、ロンドンの販売拠点を本社直轄の支店として体制の充実を図ったほか、中国の天津拠点を天津長瀬国際貿易有限公司として法人化しました。さらに長瀬塑料製品設計(天津)有限公司の設立とデザインアンドダイU.S.A.インコーポレーテッド(ミシガン州)への資本参加を行い、本格的な稼働の準備を進めています。今述べた海外事業以外にも、グレーターチャイナ圏および東南アジアを中心とした海外ビジネスの拡大に注力しております。今後も将来を見据えた戦略的な事業を展開してまいります。

■事業別売上高(連結ベース)



■形態別売上高(連結ベース)



特集 中期経営計画「WIT21」の進捗状況

「WIT21」基本戦略

顧客指向の徹底による差別化の推進

マーケットリーダー事業の育成強化

グループ機能と独自性を生かしたビジネスの創造

W ... Wisdom I ... Intelligence T ... Technology
 知恵をビジネスにする技術・情報企業

「WIT21」重点戦略分野での主な取り組み

エレクトロニクス

- ・ナガセファインケムシンガポール
- ・長瀬精細化工(無錫)
- ・中国華南地区での委託加工
- ・通信部品の販売
- ・最終消費財の販売

ライフサイエンス

- ・キラル合成技術
- ・酵素技術
- ・小規模中間体製造設備
- ・天然抽出物の応用
- ・化粧品、健康食品→訪問販売と店舗販売

自動車関連

- ・広州長瀬貿易
- ・ナガセプラスチックアメリカ
- ・デザインアンドダイ(D&D)
- ・ハンガリー事務所
- ・天津長瀬国際貿易
- ・D&D (USA、天津)
- ・ウレタン事業での合弁2社 (広州、寧波)
- ・河西工業への出資

海外事業

「WIT21」の数値目標と現況

現在の状況

2004年3月期実績	
連結売上高	5,333億円
連結営業利益	102億円
2005年3月期見通し	
連結売上高	5,680億円
連結営業利益	120億円

前倒し達成に
全力をあげる

中期計画

2006年3月期目標	
連結売上高	5,500億円
連結営業利益	110億円

10年後の姿

連結営業利益	200億円
売上高総利益率	15%
資本コストを上回る収益の確保	

中国天津・米国デトロイトに自動車部品の開発会社を設立

当社は、2003年10月に中国天津市および米国デトロイトにおいて、自動車のプラスチック部品の開発事業を開始いたしました。新会社では、顧客である自動車メーカー・部品メーカーに対し、自動車の開発段階において部品設計者・金型設計者が参画し、最新のCADシステムを駆使して、高品質で短納期の量産型を供給します。2002年2月に愛知県稲沢市に設立した(株)デザインアンドダイとともに、今後、日

本・米国・中国の3拠点を中心にグローバルなビジネスを展開してまいります。

<会社の概要>

長瀬塑料製品設計(天津)有限公司
【資本金】US\$300,000
【2006年売上見込み】約2億円
Design and Die USA Inc.
【資本金】US\$200,000
【2004年売上見込み】約5億円



インストルメントパネルの設計・試作・量産型を一括受注

栄研化学、ポリメドコ社と「便潜血検査用試薬・装置」の販売契約を締結

当社は、栄研化学(株)(本社:東京都文京区)およびポリメドコ社(POLYMEDCO Inc.本社:米国ニューヨーク)と便潜血検査用試薬・装置の北米市場における販売契約を締結いたしました。これにより本年9月(米国FDAの承認取得後)から、栄研化学が開発・販売している同商品は、当社を通じて米国の中堅診断薬製造・販売メーカーであるポリメドコ社に販売委託されることとなります。

便潜血検査は、大腸がんのスクリーニング検査に広く用いられており、栄研化学の装置(OCシリーズ)とその試薬は、医療業界で高く評価され国内トップの販売実績を誇るものです。今後、3社は販売面での協力体制により、約100億円とみられる米国便潜血検査市場、およびカナダ、メキシコ市場の開拓を推進してまいります。



便潜血全自動免疫化学分析装置

女性のお肌にうるおいを与える「サナージュ AW エクセレント コンセントレート マスク」新発売

当社の100%子会社である(株)ナガセビューティケアは、2003年10月より女性のお肌にうるおいと活力を与えるためのマスク「サナージュ AW エクセレント コンセントレート マスク」の発売を開始いたしました。この商品の特長は、コラーゲン・ヒアルロン酸産生促進物質<ゲンクワニン>(現在、特許出願中)を豊富に含む「ローズマリーエキスFV」と4つのハーブエキスが有効に働く「ハーブリ

ミックスNAL」を真皮組織までじっくり浸透させ、細胞レベルでの効果を発揮する点にあります。週に一度の使用により、水分保持能力を高めるとともにお肌にハリと弾力を与え小じわを目立たなくします。また肌あれや乾燥、活性酸素、紫外線からお肌を守ります。大切なお肌のケア商品として、幅広い女性層への販売を展開してまいります。



サナージュ AW エクセレント コンセントレート マスク



Consolidated Financial Statements

(注) 金額は、百万円未満を切捨表示しております。

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	当 期	前 期	科目	当 期	前 期
	平成16年3月31日現在	平成15年3月31日現在		平成16年3月31日現在	平成15年3月31日現在
(資産の部)			(負債の部)		
流動資産	214,828	202,762	流動負債	131,427	120,177
現金及び預金	21,636	19,661	支払手形及び買掛金	99,036	95,969
受取手形及び売掛金	159,200	150,802	短期借入金	7,657	8,061
たな卸資産	27,369	28,183	一年内償還予定社債	7,000	—
繰延税金資産	2,719	3,171	未払法人税等	2,587	2,507
その他	6,099	2,588	繰延税金負債	2	2
貸倒引当金	△ 2,196	△ 1,644	その他	15,144	13,637
固定資産	95,965	82,037	固定負債	18,959	19,605
有形固定資産	26,994	26,072	社債	—	7,000
建物及び構築物	10,520	9,807	長期借入金	1,759	1,517
機械装置及び運搬具	5,187	4,164	繰延税金負債	7,381	8
土地	9,429	9,432	退職給付引当金	8,474	10,069
その他	1,856	2,667	役員退職慰労引当金	926	981
無形固定資産	818	1,353	その他	416	28
投資その他の資産	68,152	54,611	負債合計	150,386	139,782
投資有価証券	63,370	49,076			
長期貸付金	168	374	(少数株主持分)		
繰延税金資産	712	1,402	少数株主持分	4,197	4,072
その他	4,120	4,029			
貸倒引当金	△ 218	△ 270	(資本の部)		
資産合計	310,793	284,800	資本金	9,699	9,699
			資本剰余金	9,635	9,634
			利益剰余金	125,116	119,140
			その他有価証券評価差額金	18,933	8,455
			為替換算調整勘定	△ 1,195	△ 22
			自己株式	△ 5,979	△ 5,963
			資本合計	156,210	140,944
			負債、少数株主持分及び資本合計	310,793	284,800

(注) 金額は、百万円未満を切捨表示しております。

連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	当期	前期
	平成15年4月1日から 平成16年3月31日まで	平成14年4月1日から 平成15年3月31日まで
売上高	533,301	503,688
売上原価	479,807	451,789
売上総利益	53,494	51,899
販売費及び一般管理費	43,250	43,466
営業利益	10,244	8,433
営業外収益	4,039	4,185
受取利息	447	502
受取配当金	959	1,084
持分法による投資利益	437	485
その他	2,195	2,112
営業外費用	1,172	1,333
支払利息	452	438
その他	719	895
経常利益	13,110	11,284
特別利益	8,909	2,172
固定資産売却益	585	29
投資有価証券売却益	726	582
過年度過去勤務債務一括償却額	4,200	—
厚生年金基金代行部分返上益	3,396	—
補償金	—	1,560
特別損失	10,299	5,928
投資有価証券評価損	215	3,923
過年度数理計算上の差異一括償却額	8,232	—
その他	1,851	2,004
税金等調整前当期純利益	11,721	7,528
法人税、住民税及び事業税	2,961	3,700
法人税等調整額	1,380	△ 989
少数株主利益	368	630
当期純利益	7,010	4,186

連結剰余金計算書

(単位:百万円)

科目	当期	前期
	平成15年4月1日から 平成16年3月31日まで	平成14年4月1日から 平成15年3月31日まで
(資本剰余金の部)		
資本剰余金期首残高	9,634	9,634
資本剰余金増加高	0	—
自己株式処分差益	0	—
資本剰余金期末残高	9,635	9,634
(利益剰余金の部)		
利益剰余金期首残高	119,140	114,870
利益剰余金増加高	7,276	5,348
当期純利益	7,010	4,186
連結子会社増加に伴う増加高	—	670
持分法適用会社増加に伴う増加高	265	490
利益剰余金減少高	1,300	1,078
配当金	1,017	1,065
役員賞与	59	12
連結子会社増加に伴う減少高	222	—
利益剰余金期末残高	125,116	119,140

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	当期	前期
	平成15年4月1日から 平成16年3月31日まで	平成14年4月1日から 平成15年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	11,721	7,528
減価償却費	3,188	3,119
退職給付引当金の増加額(△は減少)	△ 1,669	545
受取利息及び受取配当金	△ 1,406	△ 1,587
支払利息	452	438
為替差損益	△ 15	△ 34
有形固定資産売却損益	△ 520	226
売上債権の増減額(△は増加)	△ 8,526	1,678
たな卸資産の増減額(△は増加)	1,164	△ 2,282
仕入債務の増減額(△は減少)	3,100	△ 10,516
投資有価証券売却損益	△ 342	△ 87
有価証券の評価替	215	3,923
その他	893	2,016
小計	8,255	4,968
利息及び配当金の受取額	1,520	1,656
利息の支払額	△ 461	△ 435
法人税等の支払額	△ 2,882	△ 1,797
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,431	4,392
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△ 3,052	△ 3,133
有形固定資産の売却による収入	606	304
投資有価証券の取得による支出	△ 4,970	△ 1,019
投資有価証券の売却による収入	7,628	5,022
短期貸付金の純増減額(△は増加)	△ 1,790	286
その他	△ 110	△ 496
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,689	963
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△ 1,120	△ 3,200
長期借入による収入	500	119
自己株式の取得による支出	△ 18	△ 3,269
配当金の支払額	△ 1,017	△ 1,065
少数株主への配当金の支払額	△ 178	△ 198
その他	2	△ 27
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,832	△ 7,643
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 1,004	△ 811
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	1,904	△ 3,098
現金及び現金同等物の期首残高	19,044	21,960
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	85	181
現金及び現金同等物の期末残高	21,033	19,044
現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係		
現金及び預金勘定	21,636	19,661
預入れ期間が3ヶ月を超える定期預金	△ 603	△ 616
現金及び現金同等物	21,033	19,044

Non-Consolidated Financial Statements

(注) 金額は、百万円未満を切捨表示しております。

貸借対照表

(単位:百万円)

科目	当 期	前 期	科目	当 期	前 期
	平成16年3月31日現在	平成15年3月31日現在		平成16年3月31日現在	平成15年3月31日現在
(資産の部)			(負債の部)		
流動資産	174,824	165,606	流動負債	120,569	109,649
現金及び預金	16,164	12,113	支払手形	3,875	3,444
受取手形	18,575	18,277	買掛金	86,766	84,827
売掛金	119,754	113,676	その他	29,926	21,377
商品	11,336	13,019	固定負債	13,390	15,070
その他	10,553	9,731	負債合計	133,959	124,720
貸倒引当金	△ 1,560	△ 1,212			
固定資産	78,986	64,445	(資本の部)		
有形固定資産	9,203	9,316	資本金	9,699	9,699
無形固定資産	35	79	資本剰余金	9,635	9,634
投資その他の資産	69,747	55,049	利益剰余金	87,771	83,466
投資有価証券	52,215	37,254	その他有価証券評価差額金	18,712	8,483
関係会社株式	14,570	13,568	自己株式	△ 5,968	△ 5,951
その他	2,961	4,226	資本合計	119,850	105,332
資産合計	253,810	230,052	負債・資本合計	253,810	230,052

損益計算書

(単位:百万円)

科目	当 期	前 期
	平成15年4月1日から平成16年3月31日まで	平成14年4月1日から平成15年3月31日まで
売上高	433,817	418,004
売上原価	404,738	387,838
売上総利益	29,079	30,165
販売費及び一般管理費	24,862	26,993
営業利益	4,217	3,171
営業外収益	4,393	4,439
営業外費用	947	940
経常利益	7,663	6,671
特別利益	9,218	772
特別損失	8,966	5,398
税引前当期純利益	7,915	2,045
法人税、住民税及び事業税	1,165	1,550
法人税等調整額	1,377	△ 631
当期純利益	5,373	1,126
前期繰越利益	3,647	3,601
当期末処分利益	9,020	4,727

利益処分

(単位:円)

科目	当 期
	平成16年6月29日現在
当期末処分利益	9,020,567,812
任意積立金取崩額	
圧縮記帳積立金取崩額	3,337,513
特別償却準備金取崩額	16,738,414
合 計	9,040,643,739
これを次のとおり処分いたしました。	
利益処分額	
株主配当金	1,145,020,662
1株につき9円	
(普通配当8円	
上場40周年記念配当1円)	
取締役賞与金	50,000,000
任意積立金	
圧縮特別勘定積立金	154,609,171
特別償却準備金	5,106,591
別途積立金	4,000,000,000
次期繰越利益	3,685,907,315

会社概要 (平成16年3月31日現在)

商号	長瀬産業株式会社	NAGASE & CO., LTD.
創業	天保3年(1832年)6月18日	
設立	大正6年(1917年)12月9日	
資本金	9,699,714,135円	
従業員	807名	
主要な事業内容	染料、化学品、合成樹脂、機械、電子材料、化粧品、健康食品、医療機器等の輸出・輸入及び国内販売	
主要な事業所	大阪本社、東京本社、名古屋支店、ナガセR&Dセンター	

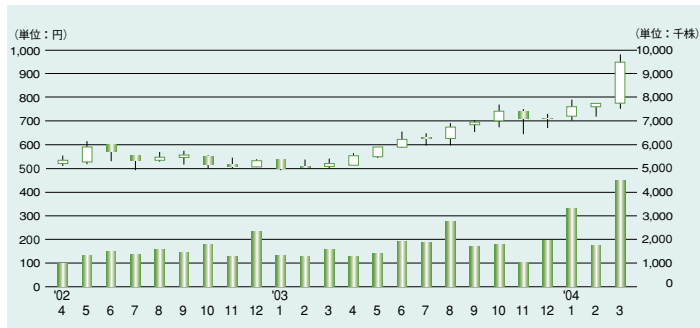
取締役・監査役 (平成16年6月29日現在)

代表取締役会長	長瀬 英男	取締役 兼 執行役員	浅見 栄二
代表取締役社長 兼 執行役員	長瀬 洋	取締役 兼 執行役員	永島 一夫
代表取締役 兼 専務執行役員	内藤 聡	社外取締役	新美 春之
取締役 兼 常務執行役員	長瀬 玲二	監査役(常勤)	柏田 裕弘
取締役 兼 常務執行役員	柴田 嘉三	監査役(常勤)	岡部 俊輔
取締役 兼 執行役員	岡子 恭一	監査役(常勤)	山下 秀男
取締役 兼 執行役員	鶴岡 誠	監査役(非常勤)	木村 榮作

執行役員 (平成16年6月29日現在)

執行役員	金籠 武夫	執行役員	菅 正道
執行役員	小野 誠	執行役員	北口 治
執行役員	馬場 信吾	執行役員	野尻 増浩
執行役員	倉光 幸司	執行役員	日高 政雄
執行役員	岡本 隆進	執行役員	山口 俊郎
執行役員	小澤 進		

株価・出来高の推移



株式の状況 (平成16年3月31日現在)

会社が発行する株式の総数	346,980,000株
発行済株式の総数	138,408,285株
株主数	7,563名

大株主

株主名	当社への 出資状況		当社の大株主への 出資状況	
	持株数 千株	議決権比率 %	持株数 千株	議決権比率 %
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	9,865	7.82	—	—
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	7,413	5.87	—	—
住友信託銀行株式会社	6,173	4.89	4,060	0.27
株式会社三井住友銀行	4,668	3.70	—	—
長瀬 洋	4,141	3.28	—	—
日本生命保険相互会社	4,068	3.22	—	—
長瀬 令子	3,522	2.79	—	—

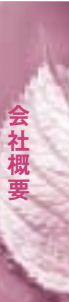
(注) 当社の自己株式11,184千株は上記の表には含めておりません。

所有者別状況

証券会社	25名	282千株 (0.20%)
自己株式	1名	11,184千株 (8.08%)
外国法人等	91名	15,048千株 (10.87%)
その他法人	294名	26,777千株 (19.35%)
個人その他	7,078名	32,630千株 (23.58%)
金融機関	74名	52,484千株 (37.92%)

所有数別状況

1,000株未満	2,346名	347千株 (0.26%)
1,000株以上5,000株未満	4,108名	6,797千株 (4.91%)
5,000株以上50,000株未満	932名	11,573千株 (8.36%)
50,000株以上1,000,000株未満	146名	33,208千株 (23.99%)
1,000,000株以上	31名	86,481千株 (62.48%)



お知らせ

当社は、単元未満株式の買増請求制度を採用いたしております。この制度により、単元未満株式をご所有の場合、その単元未満株式と併せて1単元の株式数（1,000株）となる株式数について当社に買増請求することができます。詳細については、当社の名義書換代理人であります住友信託銀行までお問合せください。証券保管振替制度ご利用の株主様は、お取引のある証券会社までお問合せください。なお、決算期（3月31日）、中間決算期（9月30日）または権利確定のために設けられる基準日の12営業日前の日から決算期、中間決算期または基準日までの間は、買増請求の受付を停止しておりますのであらかじめご了承ください。

株主メモ

決 算 期	毎年3月31日	電 話 照 会 先	(住所変更等用紙のご請求) ☎0120-175-417 (その他のご照会) ☎0120-176-417
配当金支払株主確定日	毎年3月31日	ホームページURL	http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html
定 時 株 主 総 会	毎年6月中	同 取 次 所	住友信託銀行株式会社 全国本支店
基 準 日	毎年3月31日 その他必要がある場合には取締役会の決議によりあらかじめ公告をして基準日を定める。	公 告 掲 載 新 聞	大阪市および東京都において発行する 日本経済新聞
名 義 書 換 代 理 人	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社	決 算 公 告 掲 載 URL	http://www.nagase.co.jp
同 事 務 取 扱 場 所	東京都千代田区丸の内一丁目4番4号 住友信託銀行株式会社 証券代行部	1 単 元 の 株 式 の 数	1,000株
郵 便 物 送 付 先	〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部		



長瀬産業株式会社
<http://www.nagase.co.jp>

